

物語文を読むこと

名前

学習日

ポイント

○登場人物の気持ちやようすを読み取りましょう。

問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

山から里のほうへあそびにいったさるが、一本の赤いろうそくをひろいました。

赤いろうそくは、たくさんあるものではありません。それで、さるは、赤いろうそくを、花火だと思いこんでしまいました。

さるは、ひろった※を、だいじに山へもってかえりました。

山では、たいへんなさわぎになりました。なにしろ、花火などというものは、しかにしても、いのししにしても、うさぎにしても、かめにしても、いたちにしても、たぬきにしても、きつねにしても、まだ、いちども見たことがありません。その花火を、さるがひろってきたというのです。

「ほう、すばらしい。」

「これは、すてきだ。」

しかや、いのししや、うさぎや、かめや、いたちや、たぬきや、きつねが、^①おしあいへしあいして赤いろうそくをのぞきました。するとさるが、

「あぶない、あぶない。そんなに、ちかよってはいけない。ばくはつするから。」といました。

みんなは、おどろいて しりごみしました。

そこでさるは、花火というものは、どんなに大きな音をしてとびだすか、そして、どんなにうつくしく空にひろがるか、みんなに話して

聞かせました。そんなにうつくしいものなら、見たいものだ、みんなが思いました。

「それなら、こんばん、山のとっぺんに行って、^②あそこであうちあげてみよう。」と、さるがいました。

みんなは、たいへんよろこびました。夜の空に、星をふりまくように、ぱあっと広がる花火を目にかべて、みんなはうっとりしました。さて、夜になりました。みんなは、^③むねをおどらせて、山のとっぺんにやってきました。

〈新美南吉「赤いろうそく」より〉

- (1) ※に入るふさわしいことばを、本文中から六字で書きぬいて答えなさい。

- (2) ぼう線①「おしいへしいして赤いろうそくをのぞきました」からは、みんなのどんな気もちがわかりますか。次からふさわしいものを一つえらび、記号で答えなさい。

ア 赤いろうそくをほしがる気もち。

イ 花火をめずらしがる気もち。

ウ 花火のばくはつをおそれる気もち。

エ さるをうらやましがる気もち。

--

- (3) ぼう線②「あそこ」とは、どこですか。書いて答えなさい。

--

- (4) ぼう線③「むねをおどらせて」からわかるみんなの気もちとして、ふさわしいものを次から一つえらび、記号で答えなさい。

ア こわがる気もち。 イ たのしみな気もち。

ウ ふしぎがる気もち。 エ いさましい気もち。

--

物語文を読むこと

問題

かい答	アドバイス
<div data-bbox="1711 220 1774 284">◆</div> <div data-bbox="1464 220 1675 608"><p>(1) 赤いろうそく</p><p>(2) イ</p><p>(3) (れい) 山のとっぺん。</p><p>(4) イ</p></div>	<div data-bbox="1711 639 1774 703">◆</div> <div data-bbox="902 639 1675 1385"><p>(1) 本文のはじめに、「山から里のほうへあそびにいったさるが、一本の赤いろうそくをひろいました」とあるのに着目します。</p><p>(2) 「おしいへしい」とは、せまい所で、多くの人が入りまじってこんごつすることです。「ほう、すばらしい。」「これは、すてきだ。」ということだから、みんなが赤いろうそくをめずらしがる気もちが読み取れます。</p><p>(3) 「山のとっぺん」に行って、あそこでうちあげてみよう」とあります。「あそこ」のような指しめすことばの内ようは、それよりも前にあることが多いことをおぼえておきましょう。</p><p>(4) 「むねをおどらせ(る)」は、よろこびなどでわくわくするときに使われることばです。</p></div>